

第1回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民懇談会 会議概要

■日 時 平成27年8月8日（土） 午前10：00～正午

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹、秋山滋雄、岡本和子、長谷川浩司、鵜沢哲雄、永沢映、関克巳、
内田浩、柚木香澄、前野まゆみ、大矢純三

頼高英雄市長

事務局：川崎文也（総務部長）、根津賢治（総務部次長兼政策企画室長）、
田熊純也（政策企画室長補佐）、吉田圭介（政策企画室主事）、
森本悠理（政策企画室主事）
横山徹、佐久間萌、古谷亜希子（システム科学コンサルタンツ株式会社）

■次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 会長選出
6. 議題
 - （1）会議の公開について
 - （2）市民懇談会の概要と策定スケジュールについて
 - （3）国のまち・ひと・しごと創生について
 - （4）市民アンケート結果概要について
 - （5）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン骨子（案）について
 - （6）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について
 - （7）その他
7. 閉会

■内 容

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

【自己紹介】

【会長選出】

会長に林委員を選出。

【議題】

（１）会議の公開について

事務局から、会議の公開について概要を説明した。（資料３・４参照）

⇒会議の公開について、資料３「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料４「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民懇談会の会議の傍聴にかかる取り決め（案）」のとおり扱うことで了承した。

（２）市民懇談会の概要と策定スケジュールについて

事務局から、市民懇談会の概要と策定スケジュールについて説明した。（資料５参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委 員： 資料は会議と会議の間に提供されるのか。

事務局： 第２回懇談会は９月１９日を予定している。概ねその１週間前を目安に送付したいと考えているが、その他事前に送付できる参考資料等があれば、随時送付したい。

委 員： 市民懇談会の概要に、出生率の向上、子育て世代の定住促進と記載されており、総合戦略の課題と捉えているようだが、懇談会において課題の洗い出しは行わないのか。

事務局： 本来なら、冒頭の課題の洗い出しから皆様に議論していただきたかったが、たいへん短い日程のため、事前に市で議論させていただき、出生率の向上や子育て世代の定住促進について記載している。人口ビジョンの骨子案のところで課題について説明させていただくので、積極的にご意見をいただきたい。

委 員： 若い世代を増やすことに焦点が当たり、超高齢化社会といった課題が見えてこないことが気になっている。

事務局： 後ほど、人口ビジョンと総合戦略の骨子案について説明させていただくが、将来の人口を議論する上で、年少人口や高齢人口など人口構成は重要な視点だと考えている。

(3) 国のまち・ひと・しごと創生について

事務局から、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略について概要を説明した。（資料6・7参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委員： 地方創生を題材とした大学の授業で、商店街を活性化するために、アートを活用して何か面白いことができないか考える機会があった。一人一案を考え、「その案を実行し、商店街が2年後に雑誌に特集される」と仮定して、その「雑誌」を作った。どの案も人と人をつなぐことをメインとした提案となった。

ー雑誌を委員に回覧ー

委員： 人口問題は日本人の出生率だけではなく、移民を含めて議論すべきだろう。米国などでは移民を受け入れることで人口が増加している。県南は非常に外国人が多く、中でも蕨市は人口の5%が外国人で、すでにグローバルな環境にあると言えるが、移民についてあまり議論されていないようだ。観光、労働力の視点で外国人について考えることが重要だと思うので、可能であれば、蕨市における外国人の人口動態という視点があれば良い。

会長： 外国人の人口動態に関する資料はあるか。

事務局： 次回までに資料を用意する。蕨市は外国人の比率が5%超と、県内でも高いことは認識している。

委員： 外国人に関しては、住民感情や治安の問題など、市民の中でも良し悪しの判断が分かれると思われる。もし、市民の声を取りまとめたようなものがあれば、とても興味があるので、見せていただきたい。

事務局： 外国人に焦点を当てたアンケートは実施していないが、多方面から意見を集めたいと思う。

委員： 国のひと・まち・しごと創生長期ビジョンは、地方都市を活性化する目的でつくられた面がある。「東京一極集中の是正」と記載されており、蕨市は広くとらえると東京圏に入るので、地方創生で人口を増やしていく支援対象の地域ではなく、逆に地方に人を流す対象の地域に入る。また、消滅可能性都市は20～30代の女性が増えれば、将来的に人口が減らないだろうという単純な考え方に基づいている。例えば、人口が多くても20～30代の女性が少ないので、東京都豊島区は消滅可能性都市に指定されている。こうした国の考え方をそのまま当てはめるのではなく、考え方の枠を広げる必要がある。蕨らしさを残しながら、急激な人口減少を避け、30～50年先も魅力あるまちであり続けるためにはどうしたら良いか。この考え方を前提に、資料6の図にあるように、地域で働き、人が豊かに暮らし、まちが地域らしさを出す、という循環を考えることが基本だと思う。色々な市区町村に話を聞くと、いかに人口を増やすか、いかに若い女性に残ってもらって子どもを産み、育ててもらえるような

まちにするかにかかなり重点が置かれている。果たしてそれで良いのかと感じる。

これから議論をするにあたって、蕨をより良くするという考えもあるが、地方創生全体で考えた場合、蕨は農産物など生産能力がないので、地方と一緒に連携してやっていっても良いと思う。地方が元気になるために、蕨に協力できることがあると思われ、広域連携を含めて蕨らしさを追求することが考えられる。外国人を増やすことも考え方の一つとして良いと思う。

国の考え方は偏った部分があるので、少し考え方を変え、蕨らしいまちづくりとしてどういう方法を取るか考えなくてはならない。競争に基づく戦略なので、さいたま市や川口市、戸田市と同じことをしても特徴は出せない。蕨が持つ特徴を活かし、蕨らしい、勝負できる戦略を議論していくべきだと考えている。

会 長： この会議の重要な論点を指摘されたと思う。各自治体が知恵を出し、競争することとなるが、どの自治体も同じようなものを出す可能性がある。「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンを決める際には、議論の中心は蕨らしさを追求することだった。他の市町村と同じようなものを発信しても、国の交付金の対象にはなるだろうが、少しでも条件の良い自治体に負けてしまうと思うので、そのあたりを考えていく必要がある。

事務局： 蕨らしさということで、特色を出していければと考えている。

（４）市民アンケート結果概要について

事務局から、市民アンケート結果概要について説明した。（資料８参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委 員： 他の市町村と比べると、蕨市の特徴がよりわかると思うのだが、データはあるか。

事務局： 埼玉県のアナケートを参考に設問を設計しているので、同じ設問については、県内の地域と比べることができる。また、周辺の自治体と同じ設問でアナケートを実施していないので直接比較はできないが、類似の設問で比較することは可能だ。蕨市の特徴としては、川口市や戸田市に比べ独身の若い層が多いことが挙げられる。家族で住むには適さない要因は何か、普段感じていることを踏まえ、ご覧いただければと思う。

会 長： アナケートの属性の「住まい」では、戸建住宅との回答が３９．０％だが、蕨市は持家比率が高いのか。

事務局： 持家比率は決して高い水準ではなく、賃貸住宅が多いと言える。

委 員： 個人的な感想だが、蕨市は近隣市に比べて賃料が若干安い印象がある。若者に割安な住宅を供給していると思われる。

会 長： 結婚していない若い層が多いことは気になる。住宅の構造が関係あるのだろうか。

委 員： 土地に制約があるため、戸田市などと比べると家族向けの大型マンションが少ないと感じる。20代の独身が多く、30代の子育て層が引っ越してしまうのだろう。

事務局： 国勢調査などでも、蕨市は賃貸物件の一戸あたりの面積が近隣に比べて小さいという結果が出ている。また、交通の利便性が良いため、地価が高く、大型の物件を建てるとう価格が高くなるため、なかなか家族向けの物件が立地しないことが課題になっている。

委 員： 銀行で融資の相談を受けることがあるが、ほとんどが2～3階建てのアパートだ。ワンルームに夫婦2人なら住めるが、子どもが産まれると手狭になり、転出してしまうという印象がある。

（５）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン骨子（案）について

事務局から、（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン骨子（案）について概要を説明した。（資料9・10参照）

（６）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について

事務局から、（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について概要を説明した。（資料11参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委 員： 教育、子育て支援に力を入れるなど、若者を惹きつけられるような、魅力あるまちづくりが必要だと思っている。また、安全で安心なまちを目指し、次の世代に繋げていければ良いと考えている。

委 員： 婦人会では子どもが蕨市から出て行ったという方が多い。蕨市で家族向けマンションに住めず、市外に出ていくようだ。戸田市が非常に若いまちであるのに対し、蕨市は高齢化が進んでいる。待機児童ゼロということをアピールし、少しでも若い人に蕨に来てもらって住み続けていただきたいと思う。

委 員： 私のまわりでは、地域に住み続けたいと考える人が多く、引っ越す場合でも、学区域でマイホームを探したいと話している。個人の所有だと難しい場合もあるかもしれないが、空き家等を有効に活用して、子育て世代に市内にとどまってもらえるサービスを提供できれば良いと思った。

総合戦略の骨子案には、子どもに関する取り組みについて記載されており、中でもアウトメディアについてはPTAで話題になっている。次回、具体的な内容が提示されると思うので、その際に意見を述べさせていただく。

委 員： 「しごと」について、蕨市は場所が限られているので、企業を増やすのは難

しいと感じた。これからは、自宅で仕事をするテレワークが進んでいくと思うので、テレワークの推進や、自宅周辺の快適な環境づくりの取り組みがあれば良いと思った。

蔵市で生活する場合、車での移動は少なくなるので、自動車の利用者には幹線道路が整備されていれば十分で、一方、細い道路は、歩行者や自転車、今後普及するとみられる歩行補助ロボット等が快適に通行できるような、目的別に分けた道を整備すると良いと思う。

教育の分野においてもＩＴを活用した教材が増えている。ＩＴの教材やプログラミングの授業を促進すれば、プログラミングは自宅でもできるので、作ったものを地域に提供したり、労働力を確保したりすることに繋がるのではないかと思った。詳しくは次回述べさせていただく。

(7) その他

事務局から、今後の懇談会の開催予定について説明した。

⇒第２回までの日程について、次のとおり決定した。

第２回：平成２７年９月１９日（土）午前１０時から

以上